

2024年6月の振り返り & 今後のポイント

YMfg | ワイエムアセットマネジメント

商号等 ワイエムアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第44号
加入協会 一般社団法人投資信託協会

- 本資料は、情報提供を目的としてワイエムアセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を推奨・勧誘するものではありません。
- 本資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 本資料に掲載されている当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 本資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。

2024年6月の振り返り

金融政策イベント波乱なし、欧州発の政治問題が新たな火種

市場	変動要因 等
債券（金利）	<p><u>米国債券は上昇（金利は低下）</u> ・米国の雇用統計で労働需給の緩和が示されたことや、米CPI（消費者物価指数）にてインフレ鈍化の進展がみられたことなどを好感し、金利は低下しました。</p> <p><u>国内債券は月間を通して横ばい</u> ・日本の長期金利は中旬まで低下したものの、日銀による追加利上げや国債買入れの更なる減額観測の高まりから月末にかけて上昇しました。</p>
株式	<p><u>米国株式市場は上昇</u> ・米国の長期金利が低下したことを好感し、半導体関連銘柄が相場を牽引して上昇しました。</p> <p><u>欧州株式市場は下落</u> ・フランスやイタリア等の欧州における政治の不透明感が警戒され、下落しました。</p> <p><u>国内株式市場は上昇するも上値の重い展開</u> ・日銀の金融引締め観測による長期金利上昇が嫌気され上値が重い展開となる一方、円安進行による企業収益押し上げ期待から月末にかけて上昇しました。</p>
リート	<p><u>国内リートは下落</u> 日銀の金融政策引締め観測を背景とした長期金利の上昇を嫌気し、下落しました。</p>
為替	<p><u>為替相場は一段の円安進行</u> ・日銀の金融引締めは緩やかで、米国との金利差縮小には時間を要するとの見方が強まり、円は対ドルで160円台後半まで下落し、約37年ぶりの円安水準となりました。 ・また、円は対オーストラリアドルで107円台半ばまで下落し、約17年ぶりの円安水準となりました。</p>

今後のポイント

◎欧米主要中銀の金融政策スタンスと市場の見方とのギャップ縮まる

- ・欧米の中央銀行はインフレ緩和の進展を評価。
- ・市場の政策金利予想は中央銀行の見通しに近づき、市場の安定化要因につながっている。
- ・一方、日銀についてはスタンスがつかめない状況で、市場の不安定化要因となっている。

◎堅調な米国景気を支える個人消費の変調には注意、欧米の政治不透明感残る

これまで米国個人消費を支えてきた3つの要因

- ・株価上昇による資産効果
- ・実質賃金上昇（名目賃金上昇＋インフレ率低下）
- ・高い貯蓄率



今後の米国個人消費の減退要因

- ・金利負担増加を主因としたカードローン利用残高の伸び悩み
- ・価格引上げに対する許容度の低下、買い控え
- ・余剰貯蓄の減少

欧州極右勢力躍進で財政悪化懸念が台頭、アメリカ大統領選挙でトランプ氏が勝利するリスクにも要警戒

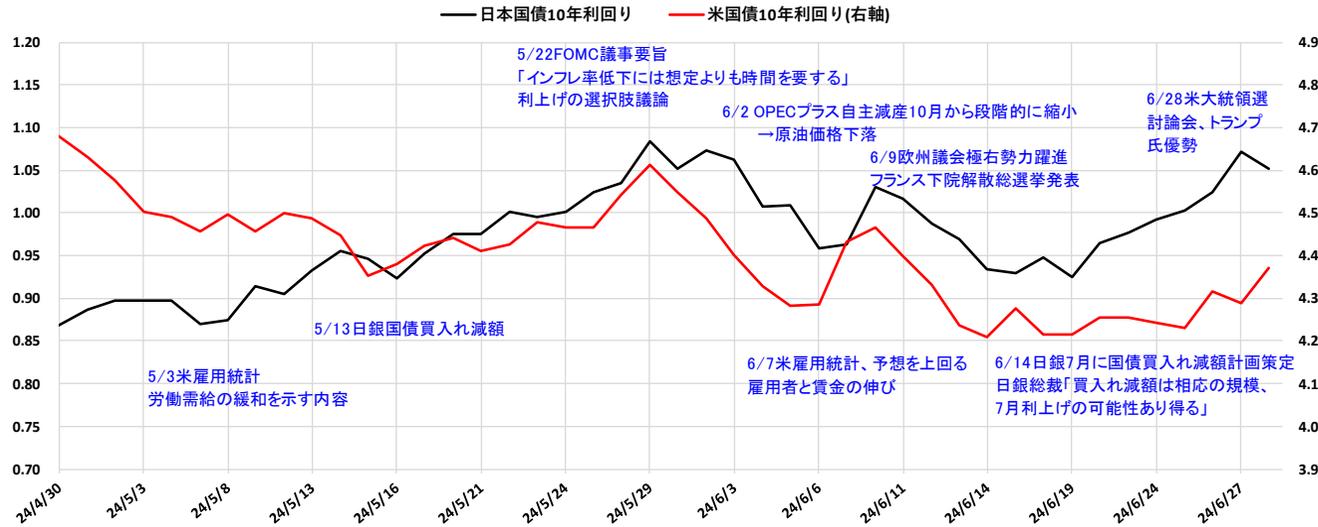
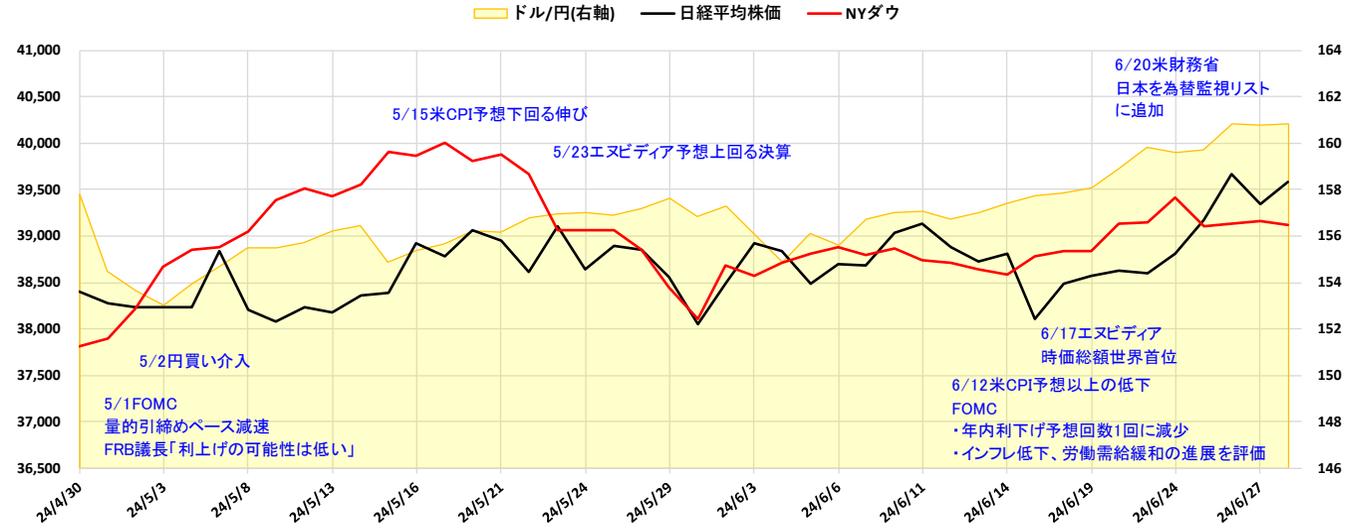
- ・過去、過度な財政赤字拡大策が株安・債券安・通貨安のトリプル安をもたらし、修正を余儀なくされたことがあります。（2022年 イギリス・トラスショック、2018～19年 イタリア など）
- ・トランプ氏が主張する関税引き上げ・移民制限は、輸入物価上昇や労働需給のタイト化を招き、インフレを再燃させるリスクが想定されます。

◎企業決算はAI関連銘柄を中心に利益成長期待、ただし投資家の期待が先行している可能性も

- ・7月は、日米で多くの企業の決算発表が予定されているため、決算内容の結果に注目が集まります。
- ・米国株式市場では、業績拡大への期待感から一部の大型ハイテク銘柄や半導体関連銘柄に買いが集中する状況となっているため、期待通り良い決算を発表できるかどうか注目が集まります。期待感の大きい銘柄については、決算内容が市場予想を少しでも下回った場合は、失望売りとなる可能性も否定できません。
- ・国内株式市場においては、円安進行が企業収益の押し上げ期待につながっている状況ですが、今後、為替介入の実施や日米の金融政策見通しに変化が生じた際は、為替相場の動向を含め注意が必要です。

主な相場変動要因

(2024/4/30~2024/6/28)



(出所) LSEGよりワイエムアセットマネジメント作成